

鹿屋市の農業



平成28年1月

鹿屋市農林水産課

目 次

1. 鹿屋市の概要	1
2. 地理的条件	2
3. 自然環境	3
4. 気象の概要	4
5. 鹿屋市の農業	5
1)農家戸数の推移	5
2)認定農業者の推移	5
3)男女別販売農家人口の推移	5
4)農業従事者の平均年齢	5
5)経営耕地規模別農家数(販売農家)推移	6
6)耕地面積の推移	6
7)農地集約等の実績	6
8)耕地利用状況	6
9)耕作放棄地の推移	6
6. 農業産出額	7
7. 主要作物の生産動向	8
1)水 稲	8
2)さつまいも	9
3)さといも	9
4)ゴボウ	10
5)新ゴボウ	10
6)ニンジン	11
7)パレイショ	11
8)ダイコン	12
9)キャベツ	12
10)葉ネギ	13
11)白ネギ	13
12)ピーマン	14
13)キュウリ	14
14)ブロッコリー	15
15)ナス	15
16)花き	16
17)茶	17
8. 主要家畜の生産動向	18
18)乳用牛	18
19)肉用牛	18
20)豚	19
21)ブロイラー	20
22)採卵鶏	20
9. 鹿屋市における輪作体系	21

1. 概要

【位置】 鹿屋市は、本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央部に位置し、大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点となっている。

【地勢】 市域北部には、日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山系が連なり市域北部は、山林地帯となっている。

また、その南部には、国営第1号の畑地かんがい施設を持つ「笠野原台地」や「肝属平野」が広がり、市域中央部にかけて平坦地が続いている。

市域西部は、錦江湾に面しており、美しい海岸線が見られ、また、市域南部は、神代三山陵の一つである吾平山陵を有する山林地帯となっている。

【面積】 総面積：448.33km²

【人口】 総人口：103,801人
総世帯：45,769世帯
(平成28年1月1日現在)



2. 地理的条件

沿革

- ・明治以前は、肝付氏、島津氏の統治下にあったが、明治4年廃藩置県が行われ、鹿屋郷、大始良郷、花岡郷、高隈郷と称した。
- ・明治22年4月1日、地方制度改正により鹿屋村、大始良村、花岡村、高隈村となる。
- ・大正2年1月の町制施行により鹿屋村は鹿屋町となり、昭和11年4月西原台地に海軍航空隊が誕生し現在の大枠が形成される。
- ・昭和16年5月市制施行により、鹿屋町、大始良村、花岡村が合併して鹿屋市となる。
- ・昭和30年1月高隈村を合併、また同33年1月垂水町新城のうち、根木原、桜町地区を鹿屋市へ編入
- ・平成の大合併により平成18年1月に鹿屋市と肝属郡の2町(吾平町・串良町)曾於郡1町(輝北町)との合併により新鹿屋市が誕生した。

地勢

総土地面積は、448.33km²、東西20km、南北41kmで市北西部の大箆岳(おおのがらだけ)標高1,237mを主峰とする高隈山系に源を発し、東へ流れる肝属川に沿って市街地が広がる。台地は、肝属川を挟んで東北部に笠野原台地、西南部に鹿屋原台地が広がっている。

市の中央部を流れる肝属川の沖積平野を中心とする肝属平野が広がる。
地質は、大隅半島特有のシラスと呼ばれる火山灰土である。

土壌

当市に広がる主な土壌は、丘陵傾斜面に見られるようにシラスを母材とした土壌がほとんどである。畑地に広く分布する土壌は、シラス層の上層に分布する黒ボク、黒ニガの土壌でその直下には赤ホヤが分布している。花岡地域には、上層部に赤ホヤが露出している畑地も見受けられるが、ほとんどの地域では上層は黒褐色の土壌で礫は混入せず腐食に富む土壌である。また、黒ボク層の砂壤土に未風土の細小礫を含む土壌も一部に分布している。

3. 自然環境

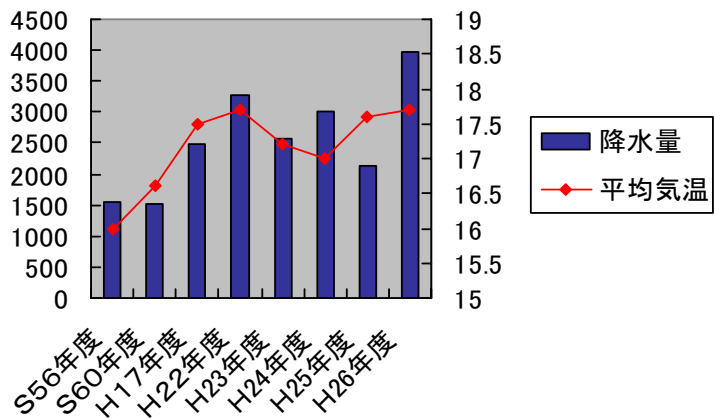
《気象》(1981~2010)

西南暖地に位置する温暖湿潤気候型

平均気温 17.3℃

降水量 2,351.1mm

日照時間 2,016.9時間



《土壌》

本市に広がる主な土壌は、丘陵緩斜面に見られようにシラスを母材とした土壌がほとんどである。

畑地に広く分布している土壌は、シラス層の上層に分布する黒ボク、黒ニガの土壌でその直下には、赤ホヤが分布している。



《笠野原畑地かんがい事業》

全国における、国営畑地かんがい事業第1号として実施された。

笠野原台地は南北16km東西12kmに広がる総面積6,300haの広大なシラス台地である。



4. 気象の概要

鹿屋市の平均降水量は、2,351.11mm、平均気温は17.3度平均日照時間は2,016.9時間である。年降水量は、1993年と1999年が特に多く、1993年は6月からの3ヶ月で2,782mm(年間3,887mm)、最小を記録したのは、1986年の1,354mmであるが1998年以降は2009年(1,982.5mm)を除いて2,000mmを下回っていない。

平均気温は、1997年以降は17度を下回っていない、日本国内では比較的温暖といえる。真冬日となることはないが、冬日は年平均32.7日あり鹿屋市より北に位置する鹿児島市(3日)や宮崎市(16日)と比較して冷え込みが厳しいといえる。

最低気温が25度以上となる熱帯夜の日数についても鹿児島市が年51.6日であるのに対し、鹿屋市では、年15.6日に留まる。

注)真冬日・・・1日の平均気温が0度未満の日
冬日・・・1日の最低気温が0度未満の日

鹿屋市の気候

月	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日最高気温 (°C)	日最低気温 (°C)	日照時間 (時間)
1月	73.5	7.2	12.7	1.6	148.8
2月	110.6	8.5	13.9	2.9	149.3
3月	181.2	11.5	16.7	6.1	158.5
4月	187.2	15.9	21.2	10.3	171.6
5月	224.9	19.7	24.8	14.8	175.9
6月	405.0	22.9	27.1	19.3	122.0
7月	353.4	26.9	31.2	23.4	197.8
8月	289.6	27.1	31.8	23.5	211.6
9月	236.8	24.6	29.5	20.5	175.7
10月	117.1	19.4	25.1	14.4	184.9
11月	87.0	14.1	19.9	8.4	159.9
12月	9.4	9.1	15.1	3.0	163.0
年	2,351.1	17.3	22.4	12.4	2,016.9

資料:鹿児島地方気象台(1981~2010)

5. 鹿屋市の農業

◎鹿屋市の農家数は、20年前に比べ約45%減少している。

また、最近の5ヵ年で96名の新規就農者が確保されているが、今後も、地域の農業を担う認定農業者や新規就農者等担い手の確保、育成が重要である。

1) 農家戸数の推移

単位：戸

年次	総数(戸)	自給的農家	販売農家数(戸)			
			専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	
平成2年	9,002	2,086	6,916	2,948	1,658	2,310
平成7年①	7,597	1,941	5,656	2,351	1,024	2,281
平成12年	6,760	1,996	4,764	2,262	779	1,723
平成17年	6,059	2,106	3,953	2,245	629	1,079
平成22年	5,318	2,029	3,289	2,125	353	811
平成27年②	4,115	1,696	2,419	1,628	259	532
比較②-①	△3,482	△245	△3,237	△723	△765	△1,749

資料：鹿児島農林水産統計年報

2) 認定農業者の推移

単位：経営体・人

年次	戸別経営体	組織経営体	認定農業者数	新規就農者数
平成18年	603	88	691	24
平成19年	626	94	720	21
平成20年	632	97	729	20
平成21年	631	102	733	20
平成22年	625	104	725	14
平成23年	556	103	659	10
平成24年	562	106	668	27
平成25年	548	103	651	25
平成26年	554	105	659	18
平成27年	542	107	649	11

資料：鹿屋市農林水産課

3) 男女別販売農家人口の推移

単位：人

年次	男女別世帯員数			男女別農業従事者数		
	計	男	女	計	男	女
平成12年	13,576	6,755	6,821	8,570	5,538	3,032
平成17年	10,416	5,255	5,161	8,320	4,477	3,843
平成22年	8,361	4,257	4,104	6,949	3,744	3,205
平成27年	103,662	49,565	54,097	5,096	2,739	2,357

資料：肝属地域の農業

4) 農業従事者の平均年齢

単位：歳

年次/項目	農業就業人口	基幹的農業従事者
平成12年①	61.7	62.6
平成17年	65	65.1
平成22年	65.4	65.4
平成27年②	66.5	66.6
比較②-①	4.8	4.0

資料：鹿児島農林水産統計年報

5) 経営耕地規模別農家数(販売農家)の推移

単位: 経営体

年次	販売農家における経営耕地面積規模別経営体数						
	~0.3ha	0.3~0.5ha	0.5~1ha	1.0~1.5ha	1.5~2.0ha	2.0~5.0ha	5.0ha以上
平成12年	84	830	1,631	877	486	689	167
平成17年	88	681	1,260	683	407	641	193
平成22年	54	503	954	585	345	594	274
平成27年	39	356	647	417	240	480	291

資料: 肝属地域の農業

6) 耕地面積の推移

年次	計(ha)	田(ha)	畑(ha)				1戸当り耕地面積(a)	鹿児島県1戸当り耕地面積(a)
				普通畑	樹園地	牧草地		
平成12年	11,010	2,507	8,507	8,000	397	120	148	132
平成17年	10,700	2,360	8,390	7,840	431	120	177	141
平成22年	10,400	2,310	8,090	7,531	439	120	196	157
平成27年	10,200	2,290	7,950	7,395	435	120	249	188

資料: 肝属地域の農業

◎鹿屋市の耕地は、水田が約2割、畑地が8割である。

平成22年の耕地面積は、10,400haで平成12年と比較すると610haの減少となっている。

また、農家1戸当りの耕作面積は、平成12年から約40a増え196aとなり着実に拡大が進んでいる。

7) 農地集約等の実績

単位: ha

年度/項目	農地集約実績(利用権設定)	耕作放棄地解消実績
平成23年度	333	0.8
平成24年度	419	2.3
平成25年度	392	6.2
平成26年度	365	3.3

資料: 農林水産課・農業委員会

8) 耕地利用状況(平成26年)

単位: ha

作目	水稻	落花生 そば	甘藷	野菜 パレisho	果樹、花卉	茶	芝、緑化樹	飼料作物
鹿屋市	1,380	46	1,790	1,345	98	376	308	5,802

資料: 肝属地域の農業

◎耕地の利用率は、11,390haの110%であり、表・裏作までの有効活用の余地はある。

9) 耕作放棄地の推移

地区	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)
鹿屋地区	3,926	438	4,369	459	5,724	615	7,095	750
輝北地区	1,001	156	1,036	146	950	136	1,151	165
串良地区	1,333	156	1,190	137	993	110	936	103
吾平地区	954	92	886	82	855	87	975	99
合計	7,214	842	7,481	824	8,522	948	10,157	1,117

資料: 鹿屋市農業委員会

6. 農業産出額(平成26年度)

鹿児島県の農業産出額	426,300百万円
肝属郡	96,730百万円(県内22%)
鹿屋市	50,630百万円(県内12%)
うち耕種	11,279百万円
畜産	39,351百万円

◎鹿屋市の農業は、温暖な気候と広大な畑地に恵まれ、さつまいも、茶、園芸作物及び肉用牛などの畜産が盛んである。

1) 鹿屋市の農業産出額 (単位:千万円)

年度	産出額	内 訳	
		耕種部門	畜産部門
平成9年	4,465	1,377	3,088
平成11年	4,298	1,321	2,977
平成14年	4,345	1,219	3,126
平成17年	4,595	1,164	3,431
平成19年	4,058	1,055	3,003
平成21年	4,213	1,129	3,084
平成23年	4,499	1,053	3,446
平成24年	4,538	1,142	3,396
平成25年	4,804	1,118	3,686
平成26年	5,063	1,128	3,935

資料:肝属地域の農業

2) 平成26年度農業産出額内訳 (単位:千万円)

農産物生産額 A+B+C	耕種 A									加工 農産物 B	畜産 C				
		米	落花生 そば	甘藷	野菜	果樹	花卉	パコ	生茶			肉用牛	乳用牛	豚	鶏
5,063	1,127	154		215	546	7	101		104		3,935	1,346	208	1,472	909

注)・パレイヨは野菜に含む。

資料:肝属地域の農業

- ・さつまいもは、青果、加工、焼酎等
- ・加工農産物は荒茶

7. 主要作物の生産動向

1) 水 稻

◎本市の稲作は、飯米農家が主流であり、1戸当りの作付面積も約20aでほとんどの農家が、他の作物との複合経営か兼業農家である。また、販売農家においては、完熟堆肥、水管理、適期防除、適期管理作業を徹底し、美味しい米づくりに努めている。



山間地の稲作風景



コンバインによる収穫

作期別作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	水 稻			早期水稻			普通水稻		
	作付面積	10a当り収量	収穫量	作付面積	10a当り収量	収穫量	作付面積	10a当り収量	収穫量
平成19年	1,219	353	4,303	604	234	1,413	615	472	2,903
平成20年	1,375	474	6,518	524	476	2,494	851	472	4,017
平成21年	1,347	465	6,264	511	462	2,361	836	467	3,904
平成22年	1,330	455	6,052	506	449	2,272	824	461	3,799
平成23年	1,271	457	5,808	454	447	2,029	817	466	3,807
平成24年	1,297	444	5,759	487	429	2,089	810	458	3,710
平成25年	1,288	449	5,783	496	437	2,167	792	461	3,651
平成26年	1,273	421	5,359	477	363	1,731	795	459	3,649

資料:鹿屋市農林水産課

2) さつまいも

◎これまで、防災営農作物として、澱粉用、加工用、焼酎用さつまいもが定着している。

さつまいもと秋冬作の輪作体系を確立させることで農家の経営安定を図る。



「べにはるか」



「べにはるか」の収穫風景

「さつまいも」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	2,098	2,109	2,117	2,071	2,023	1,936	1,916	1,759
10a当り収量	2,911	2,897	3,014	2,767	2,710	2,494	2,798	2,737
収穫量	61,064	61,095	63,805	57,303	54,829	48,280	53,618	48,155

資料：鹿屋市農林水産課

3) さといも

◎さといもの生産面積は、昭和42年の笠野原畑かん通水とともに急激に拡大した。

昭和60年頃には、鹿屋市全体で1,000haまで拡大したが連作障害等で減少し、最近では輪作体系による高品質のさといもが生産されるようになった。



畝間灌水



「さといも」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	184	194	200	196	183	158	144	157
10a当り収量	1,810	1,598	1,621	1,592	1,592	1,614	1,619	1,976
収穫量	3,330	3,100	3,242	3,120	2,913	2,550	2,323	3,097

資料：鹿屋市農林水産課

4) ゴボウ

◎温暖な気候と土壌条件が栽培に適していることや、機械化が確立していることから土地利用型農業の輪作体系作物の一つとして期待されている。



畑かんの推進作物として有望な「新ごぼう」



機械化体系の確立により、栽培面積も増加

「ゴボウ」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	122	110	112	122	124	126	119	116
10a当り収量	2,014	1,937	1,941	1,879	1,773	1,810	1,780	1,550
収穫量	2,457	2,131	2,174	2,292	2,198	2,281	2,113	1,798

資料:鹿屋市農林水産課

5) 新ゴボウ

◎風味がよくサラダ等に利用できることから、若者主婦層にも人気が高く需要も拡大してきた。

「新ゴボウ」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	10	14	16	16	24	40	61	69
10a当り収量	1,090	721	906	819	833	923	832	859
収穫量	109	101	145	131	200	369	508	592

資料:鹿屋市農林水産課

6) ニンジン

◎近年の生産技術の向上により、10a当りの収量は3,500kg以上と安定している。

また、土地利用型農業の輪作作物としても期待されており作付面積も90ha～100haで推移している。



ニンジン収穫状況



キャロットジュース

「ニンジン」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	92	91	91	93	97	102	104	109
10a当り収量	4,074	3,560	3,673	3,690	3,969	3,844	4,105	3,583
収穫量	3,748	3,240	3,342	3,432	3,850	3,921	4,269	3,888

資料：鹿屋市農林水産課

7) バレイショ

◎春植えの加工用契約栽培が主となっている。今後も、温暖な気候を利用した加工バレイショを中心に早掘バレイショを含め面積拡大に努め産地形成を図る。



加工バレイショ



ハーベスタを使った収穫風景

「バレイショ」作付面積・収穫量

単位：ha、kg、t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	190	149	148	133	122	124	121	128
10a当り収量	3,021	2,933	2,752	2,583	2,639	2,694	2,942	3,025
収穫量	5,740	4,370	4,073	3,435	3,220	3,340	3,560	3,873

資料：鹿屋市農林水産課

8) ダイコン

◎加工ダイコンを中心に青果、干し大根が甘藷との輪作作物として栽培されている。



「ダイコン」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	243	248	268	279	278	299	294	299
10a当り収量	5,902	5,000	4,903	3,968	4,345	4,377	4,567	4,352
収穫量	14,341	12,400	13,140	11,070	12,080	13,086	13,428	13,013

資料:鹿屋市農林水産課

9) キャベツ

◎串良町、小野原町が市内の主産地を形成しており、また細山田地区においては、周年出荷を行なっている。



「キャベツ」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	115	116	122	126	128	123	121	153
10a当り収量	3,843	3,862	3,880	3,529	3,646	3,620	3,629	3,810
収穫量	4,420	4,480	4,734	4,446	4,667	4,452	4,399	5,830

資料:鹿屋市農林水産課

10) 葉ネギ

◎国産の安全・安心な野菜を求めることから周年出荷による面積が拡大してきた。



「葉ネギ」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	27	25	33	42	110	114	88	92
10a当り収量	1,885	1,876	1,891	1,405	1,340	1,339	1,361	1,350
収穫量	509	469	624	590	1,474	1,526	1,194	1,242

資料: 鹿屋市農林水産課

11) 白ネギ

◎一時期、中国産との競合により面積が減少したが、消費者の国産嗜好の高まりにより近年では、秋冬ネギ、ハウスネギ、夏ネギと長期に販売を展開している。



「白ネギ」作付面積・収穫量

単位: ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	37	37	38	37	35	40	38	36
10a当り収量	2,751	2,827	2,771	2,616	2,614	2,593	2,530	2,532
収穫量	1,018	1,046	1,053	968	915	1,037	972	901

資料: 鹿屋市農林水産課

12) ピーマン

◎県の広域ブランド品目、国の指定産地にも指定され、畑地かんがい施設を用いた高収益作物であるとともに価格補償制度も充実しているため、より一層の安定出荷を図る必要がある。



生産額 県内3位
 ブランド産地の東串良、志布志を中心に生産されている。
 東串良町は、鹿児島ブランド野菜に指定されている。H4. 3月
 鹿屋では串良、吾平地区で多く栽培されている。

「施設ピーマン」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	8.0	7.8	7.8	7.7	8.3	8.3	8.3	9.5
10a当り収量	15,000	14,487	13,718	14,026	13,048	14,687	15,964	13,548
収穫量	1,200	1,130	1,070	1,080	1,083	1,219	1,325	1,287

資料:鹿屋市農林水産課

13) キュウリ

◎県の広域ブランド品目、国の指定産地にも指定され、畑地かんがい施設を用いた高収益作物であるとともに、価格補償制度も充実しているため、より一層の安定出荷を図る必要がある。



生産額 県内東串良町に次いで2位
 串良地区で多く生産されている。
 H20. 5月に鹿児島ブランド野菜に指定されている。

「施設きゅうり」作付面積・収穫量

単位:ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	4.0	4.0	3.6	3.6	3.4	3.2	3.2	3.4
10a当り収量	15,400	18,425	16,250	15,556	15,676	18,250	20,172	17,059
収穫量	616	737	585	560	533	584	646	580

資料:鹿屋市農林水産課

14) ブロッコリー

◎小野原町に昭和50年代から本格的に導入され市町単独面積では、県内1を誇る産地となっている。また、品種改良が進み11月から5月までの長期出荷が可能になっている。

なお、肝属中部畑地かんがいの受益地においては、さつまいもとブロッコリーの輪作体系が可能なることから、畑かん整備地域に導入し面積の拡大を図っているところである。



肝属中部地区における
ブロッコリー栽培



「ブロッコリー」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	46	45	44	46	44	44	45	43
10a当り収量	1,165	1,011	1,002	1,007	889	936	960	619
収穫量	536	455	441	463	391	412	427	266

資料：鹿屋市農林水産課

15) ナス

◎ピーマン、キュウリに次ぐ新たな施設園芸作物として導入された品目である。

畑地かんがい施設を用いた高収益作物であり、栽培技術の高位平準化を図ることで経営の安定を図る必要がある。



吾平町で栽培され京浜地方
を中心に出荷されている。

「施設なす」作付面積・収穫量

単位：ha・kg・t

区分	平成19年	平成20年	平成20年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
作付面積	2.6	2.4	2.4	2.6	2.4	2.4	2.3	2
10a当り収量	10,615	10,625	10,625	11,538	9,417	10,500	10,000	10,400
収穫量	276	255	255	300	226	252	230	208

資料：鹿屋市農林水産課

16) 花き(輪菊)(スプレー菊)(テッポウユリ)

◎鹿児島県は、花の生産量、消費量ともに全国トップクラスにある。

現在は、全国的に花の消費が減少しておりフラワーベレンタイン(男性から女性へ花を贈る)なるものが全国展開されている。

◎輝北地区においては、冷涼な気候により花色の優れたスプレー菊が生産され全国有数な産地となっている。

◎輝北地区のスプレー菊は、「そお・かのやのスプレーギク」として鹿児島ブランドに指定されている。

平成23年5月27日指定

輪菊



スプレー菊



テッポウユリ



「花き」作付面積・収穫量

単位：a・千本

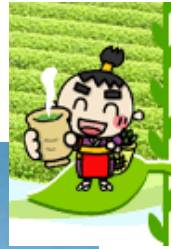
区分	輪菊		スプレー菊		テッポウユリ	
	作付面積(延べ)	出荷量	作付面積(延べ)	出荷量	作付面積(延べ)	出荷量
平成19年	1,196	4,106	1,642	8,372	290	520
平成20年	1,167	4,252	2,216	9,917	250	500
平成21年	1,167	4,409	2,306	9,070	250	500
平成22年	1,160	4,302	2,706	9,029	250	500
平成23年	1,150	4,309	2,338	9,057	240	480
平成24年	1,125	3,972	2,527	8,674	235	440
平成25年	1,020	3,053	2,611	7,710	205	358
平成26年	1,013	3,040	3,217	7,889	182	326

資料：鹿屋市農林水産課

17) 茶

◎笠野原台地、西原台、曾於南部の畑地かんがい施設を利用した多種にわたる茶の栽培によりこれまで順調に面積拡大されてきた。 今後は、消費者の嗜好や流通形態の変化に対応するため地域の優位性を生かした産地化、生産農家の経営安定を図る必要がある。

笠野原台地における乗用摘採機による摘採(収穫)



大型荒茶加工施設
(グリーンティかのや)



「茶」作付面積・収穫量

単位:ha・t・円

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	
栽培面積	370	377	372	371	370	369	367	370	
荒茶生産量	938	905	892	970	1,197	1,181	1,160	1,161	
荒茶価格	鹿屋市	1,550	1,584	1,203	1,297	1,014	1,060	812	874
	県平均	1,246	1,071	888	1,103	1,100	1,142	924	948

資料:鹿屋市農林水産課

8. 主要家畜の生産動向

18) 乳用牛

◎平成26年飼養戸数(43戸)は、5年前の平成21年と比較すると18戸(30%)減少し、飼養頭数(3,586頭)は496頭(12%)減少しているが、1戸当りの規模は拡大している。

平成26年の生乳生産量(17,975t)は、平成21年と比較すると1,832t(9%)減少しているが、生産額(2,045百万円)は130百万円(7%)増加しており、この要因は、生乳価格の値上げによるものである。



鳴之尾牧場に放牧される乳牛

「乳用牛」生産戸数・生産額

単位：戸・頭・t・百万円

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
乳用牛戸数	70	70	61	56	52	50	44	43
乳用牛頭数	4,698	4,698	4,082	3,898	3,940	4,131	3,601	3,586
1戸平均頭数	67	67	67	70	76	83	82	83
生乳生産量	19,901	19,901	19,807	18,878	18,670	18,201	17,970	17,975
生産額	1,679	1,679	1,915	1,772	1,889	1,821	1,920	2,045

資料：鹿屋市畜産課

19) 肉用牛

◎平成26年の飼養戸数(1,287戸)は、平成21年と比較すると559戸(32%)減少し、飼養頭数(41,915頭)も5,517頭(12%)減少しているが、1戸当りの飼養頭数(36頭)は、8頭増加しており、1農家当りの規模は拡大している。

平成26年肥育牛出荷頭数(6,701頭)は、平成21年と比較すると1,337頭(17%)減少しているが、生産額(5,424百万円)は、平成21年とほぼ横ばいであり、この要因は、枝肉価格の高騰によるものである。

また、子牛の出荷頭数(11,527頭)は平成21年と比較すると、2,855頭(20%)減少しているが、生産額(6,042百万円)は、1,232百万円(20%)増加しており、この要因は、子牛価格の高騰によるものである。



和牛共進会



「肉用牛」生産戸数・生産額

単位：戸・頭・百万円

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
肉用牛戸数	1,894	1,792	1,721	1,609	1,510	1,382	1,287	1,162
肉用牛頭数	44,413	46,369	47,432	46,400	47,600	44,700	43,946	43,946
1戸平均頭数	23	26	28	29	32	32	34	36
肥育牛出荷頭数	7,387	7,538	8,038	6,553	7,364	6,759	7,161	6,701
肥育牛生産額	5,120	5,214	5,425	4,391	4,938	4,765	5,434	5,424
子牛出荷頭数	12,913	14,404	14,417	14,259	13,750	12,350	12,221	11,572
子牛生産額	6,131	5,788	4,810	4,796	5,282	4,775	5,653	6,042

資料：鹿屋市畜産課

20) 養豚

平成26年飼養戸数は(148戸)は、平成21年と比較すると33戸(18%)減少し、飼養頭数(255,879頭)も37,487頭(14%)減少しているが、1戸当りの飼養頭数(1,593頭)は、83頭増加しており、1農家当りの規模は拡大している。

平成26年の出荷頭数(387,787頭)は、平成21年と比較すると48,624頭(11%)減少しており、生産額(14,467百万円)においても、556百万円(4%)の減少となっている。

鹿児島黒豚



スターポーク



「豚」生産戸数・生産額

単位：戸・頭・百万円

区分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
養豚戸数	192	181	181	178	187	166	157	148
養豚頭数	281,132	270,175	273,366	280,083	279,598	252,852	269,806	255,879
1戸平均頭数	1,464	1,493	1,510	1,574	1,495	1,523	1,719	1,593
肉豚出荷頭数	383,931	327,266	436,411	362,676	451,233	425,023	426,940	387,787
生産額	15,344	14,533	15,023	13,230	14,158	14,851	15,452	14,467

資料：鹿屋市畜産課

21) ブロイラー

◎平成26年飼養戸数(33戸)は、平成21年と比較すると4戸(1%)増加している。飼養頭数は平成21年と比較し62%、823千羽増加しており、1戸当りの飼養頭数は平成21年の46千羽から65千羽となっている。こらは、養鶏の面積当りの標準飼養羽数が年々増加していることが大きい。出荷羽数は86%増加しており、生産額は約2倍となっている。



「ブロイラー」生産戸数・生産量

単位：戸・千羽・百万円

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
ブロイラー戸数	31	34	29	27	34	25	29	33
ブロイラー羽数	1,449	1,604	1,329	1,255	2,455	1,190	2,221	2,152
1戸平均羽数	47	47	46	46	72	48	77	65
出荷羽数	11,669	7,125	6,597	4,596	10,269	12,837	12,693	12,266
生産額	5,988	3,349	3,298	4,324	9,722	6,457	6,177	6,906

資料：鹿屋市畜産課

22) 採卵鶏

◎平成26年飼養戸数は14戸で、平成21年と比較すると7戸減少した。飼養羽数は、平成21年度と比較し32%、374千羽増加している。1戸当りの飼養羽数は平成21年の56千羽から57千羽となっている。



「採卵鶏」生産戸数・生産額

単位：戸・千羽・百万円

区 分	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
採卵鶏戸数	22	24	21	15	18	12	13	14
採卵鶏羽数	1,141	1,124	1,173	929	761	993	888	799
1戸平均羽数	52	47	56	62	42	83	68	57
生産量	7,992	8,271	13,030	9,122	4,630	2,817	3,330	10,618
生産額	2,383	2,468	3,009	2,491	1,716	521	583	2,187

資料：鹿屋市畜産課

9. 鹿屋市における輪作体系

1. 畑作における輪作体系の例

当該年度												翌年度		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
<p>甘藷 (所得 澱粉用58千円/10a 焼酎用78千円 青果用166千円) ※収穫開始: 8月～</p>														
<p>飼料作 (トウモロコシ、イタライグラス等) ※収穫開始: 7月～</p>														
<p>大根 (80円/kg 所得率40% 所得158千円/10a) ※播種: 9月～11月下旬 出荷: 11月上旬～3月下旬</p>														
<p>ブロッコリー (250円/kg 所得率60% 所得151千円/10a) ※定植: 9月上旬～11月中旬 出荷: 11月中旬～3月中旬</p>														
<p>キャベツ (80円/kg 所得率50% 所得150千円/10a) ※定植: 8月上旬～12月中旬 出荷: 11月～5月</p>														
<p>新ゴボウ (520円/kg 所得率27% 所得140千円/10a) ※播種: 8月下旬～9月下旬 出荷: 12月～3月</p>														
<p>タマネギ (100円/kg 所得率20% 所得89千円/10a) ※定植: 10月下旬～11月中旬 出荷: 4月中旬～5月下旬</p>														
<p>加工ハレイソ (56円/kg 所得率59% 所得94千円/10a) ※定植: 1月中旬～9月上旬 出荷: 5月下旬</p>														

2. 水田における輪作体系の例

当該年度												翌年度		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1年目	早期水稲													
2年目	飼料用稲(WCS)													
3年目	早期水稲													
1年目	サトイモ(セレバス)													
2年目	飼料用稲(WCS)													
3年目	早期水稲													
例①	ブロッコリー(又はトレビス)													
	イタライグラス													
	ブロッコリー(又はトレビス)													
例②	イタライグラス													
	ブロッコリー													